

1

まちの人たちが受けつぐ行事

各地の神社

わたしたちの町、中標津町に開たくの
ために人が住みつくようになったのは、
今から100年ほど前です。開たくの苦
労はたいへんなものでしたが、人々は森を切り開き、畑をつくっていきまし
た。そして中標津町の各地域の人々は、神社をつくりました。地域の安全や
作物の収穫への祈り、感謝のために神社祭がおこなわれるようになりました。
そして人々の生活に深く根ざしていきました。その神社祭は、形を変えなが
ら現在もいくつかの神社で続いています。長い歴史のある地域の行事です。



中標津町には、どん
な神社があるのだろう。



↑ 中標津神社



↑ 計根別神社



↑ 上武佐神社



↑ 武佐神社



↑ (開陽) 八幡神社



↑ 俣落拓北神社



↑ 東西竹神社



↑ 西竹神社



↑ 養老牛神社



↑ 上標津神社



↑ 中標津神社例大祭



なかしべつ ちやう じんじや
中標津町でも、神社
祭はおこなわれている
のだろうか。



↑ 計根別神社祭

それぞれの神社には「宮司」や「氏子
総代」の方がいます。それらの人にお話
をうかがってみましょう。神社や神社祭
のことをはじめとして、中標津町の人々
の昔のくらしのようすがわかります。



神社や神社祭のこと
について調べてみよう。

各神社のできた年と神社祭の時期

神社名	できた年	神社祭
中標津神社	1913（大正2）年	7月例大祭
計根別神社	1929（昭和4）年	9月
上武佐神社	1920（大正9）年	9月
武佐神社	1914（大正3）年	9月
（開陽）八幡神社	1924（大正13）年	9月
俣落拓北神社	1919（大正8）年	6月
東西竹神社	1947（昭和22）年	6月
西竹神社	1940（昭和15）年	6月
養老牛神社	1929（昭和4）年	6月
上標津神社	1975（昭和50）年	6月

※このほかにも中標津町内には神社があります。俣橋地区には、
「共成神社」がありましたが中標津神社に合祀され、いっしょ
になりました。

なかしべ つ ちよう ねんちゆうぎよう じ
中標津町の年中行事

なかしべ つ ちよう じんじゃさい
 中標津町では、神社祭のほかにも、お
 まつ 祭りやもよおし^{もの}物が毎年^{まいとし}おこなわれてい
 ます。それらの行事^{ぎよう じ}もこの地域^{ち いき}の特色^{とくしょく}や
 さんぎよう 産業^{はってん}の発展^{ひとびと}を人々が喜び合う場^{よろこ}となっ
 ています。「なかしべつ夏祭り^{まつ}」のように
 50 年^{い じゅうつづ}以上続いているお祭り^{まつ}もあります。



なかしべ つ ちよう つづ
 中標津町でも続けら
 れている行事^{ぎよう じ}には、ど
 んなものがあるだろう
 か。



↑ なかしべつ夏祭り^{まつ}（8 月）



↑ なかしべつ冬まつり（2 月）



↑ じゃがいも伯爵^{はくしやく}まつり（9 月）

2

むかし どうぐ 昔の道具とくらし

むかし どうぐ 昔の道具とくらし

なかしべ つ ちやう むかし
中標津町の昔のくらしのようすや昔
つか どうぐ しら きやう ど かん
使っていた道具を調べるのには、郷土館

ほうほう
に行く方法もあります。郷土館では、

ひとびと むかしつか どうぐ てん じ むかし ひとびと
人々が昔使っていたさまざまな道具が展示されており、昔の人々のくらしの
ようすを調べることができます。なかしべ つ かい ひとびと
中標津の地を開たくに入った人々は、はじ
めは畑作をおこないました。しかし、き おん れいがい つづ
気温が上がらず冷害が続いたため、だ
んだんと牛をかう らくのう きやう ど かん つか
酪農をするようになりました。郷土館には、そのころ使っ
ていた農業の道具も展示されています。



むかし どうぐ
昔の道具には、どん
なものがあつたのだろ
うか。



↑ヘイレーキ

か ぼくそう あつ き かい
馬にひかせ、刈った牧草を集めてよせる機械



↑プラウ

たがや のう ぐ
土を耕す農具



↑牛乳輸送缶

ぎゆうにゆう りゅう そう かん
しばった牛乳を運ぶための小型タンク。1斗5
しやう やく おも つか
升入り(約27ℓ)が主に使われました。



↑ズラリと並べられた別所式プラウ

なかしべ つ し がい べつしよてつこうしよ べつしよしき
中標津市街の別所鉄工所で作られた「別所式
プラウ」は、北海道庁で優れた農具の1つに指
定されていまして。べつしよしき
並べられたプラウは、まんしゅう
満州
開たくで使われました。(昭和12年頃撮影)

がっこう

学校のうつりかわり

なかしべ つ ちょう しょうがっこう ちゅうがっこう
 中標津町には、小学校が3校、中学校
 が2校、義務教育学校が1校、高等学校
 が2校、支援学校が1校あります。小学

こう じ どうすう やく ちゅうがっこう せい と すう
 校の児童数は約1,200人、中学校の生徒数は約640人です。今から60

い じょう しょうがっこう じ どうすう
 年以上前は、小学校の数は14校あり、児童数は2,000人をこえていました。

ぐん ぶ ち いき じ どうすう どうごう へいこう すす げんざい
 郡部の地域での児童数がへってきたため、統合や閉校が進み、現在（2022
 れい わ
 （令和4）年）の数になっています。

じ ぶん がっこう れき し しら ねんびょう
 自分の学校の歴史を調べて、年表などに見てみましょう。



むかし がっこう
 昔の学校のようにすは、
 どうだったのだろうか。

なかしべ つ ちょうない しょうがっこう ちゅうがっこう
 中標津町内の小学校・中学校

がっこうめい 学校名	こうしやう 校章	かいこう 開校	びこう 備考
 たわらばししょうがっこう 俵橋小学校		1916 (大正5) 年	れい わ なかしべ つ 令和2年中標津 東小に統合し、 へいこう 閉校
 む さしょうがっこう 武佐小学校		1917 (大正6) 年	へいせい なかしべ 平成29年中標 津東小に統合 し、へいこう 閉校
 む さちゅうがっこう 武佐中学校		1947 (昭和22) 年	しょう わ 1964 (昭和39) 年から小中併設校 となる。中学校は へいせい こうりやう 平成26年に広陵 ちゅう どうごう へいこう 中に統合し、閉校
 かいようしょうがっこう 開陽小学校		1918 (大正7) 年	へいせい まる 平成26年、丸 やましょう どうごう 山小に統合し、 へいこう 閉校
 なかしべ つ しょうがっこう 中標津小学校		1920 (大正9) 年	

がっこうめい 学校名	こうしょう 校章	かいこう 開校	びこう 備考
 またおちしょうがっこう 俣落小学校		1922 (大正11) 年	平成25年、丸山小に統合し、閉校
 とうほうしょうがっこう 当幌小学校		1925 (大正14) 年	昭和47年、中標津小に統合し、閉校
 けねべつしょうがっこう 計根別小学校		1927 (昭和2) 年	平成27年、計根別学園に統合し、閉校
 かみしべつしょうがっこう 上標津小学校		1928 (昭和3) 年	昭和51年、計根別小に統合し、閉校
 ようろうしょうがっこう 養老牛小学校		1929 (昭和4) 年	平成24年、計根別小に統合し、閉校
 とよおかしょうがっこう 豊岡小学校		1929 (昭和4) 年	昭和53年、中標津小に統合し、閉校
 きょうわしょうがっこう 協和小学校		1929 (昭和4) 年	昭和52年、中標津小に統合し、閉校
 わかたけしょうがっこう 若竹小学校		1945 (昭和20) 年	平成18年、計根別小に統合し、閉校

がっこうめい 学校名	こうしょう 校章	かいこう 開校	びこう 備考
 なかしべつ ちゅうがっこう 中標津中学校		1947 (昭和 22) 年	
 け ね べつちゅうがっこう 計根別中学校		1947 (昭和 22) 年	へいせい 平成 27 年、計 ね べつがくえん とうごう 根別学園に統合 し、閉校
 にしたけしょうがっこう 西竹小学校		1949 (昭和 24) 年	へいせい 平成 27 年、計 ね べつがくえん とうごう 根別学園に統合 し、閉校
 だい に またおししょうがっこう 第二俣落小学校		1953 (昭和 28) 年	しょう わ 昭和 47 年、また おちしょう とうごう 落小に統合し、 へいこう 閉校
 なかしべつ ひがししょうがっこう 中標津東小学校		1969 (昭和 44) 年	
 こうりゅうちゅうがっこう 広陵中学校	 (初代) 	1978 (昭和 53) 年	
 まるやましょうがっこう 丸山小学校		1982 (昭和 57) 年	
 け ね べつがくえん 計根別学園		2015 (平成 27) 年	

※俣橋、武佐、開陽、俣落、当幌、上標津、養老牛、西竹の学校は、中学校も併設され、
「小中学校」だった時期がありました。



↑ れい わ 令和 2 年 3 月で閉校となった へいこう 俵橋小学校 たわらばししょうがっこう



↑ たわらばししょうがっこうへいこう 俵橋小学校閉校の碑 ひ

